令和６年度

学力向上を図るための全体計画

４９練馬区立大泉第二小学校

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
都・区教育委員会の教育目標・指導の重点

学校教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、調和のとれた豊かな人間性と生涯を通じて自ら学ぶ意欲に満ちた個性豊かな国際人を育成するために、次の資質を身に付けた児童の実現を目指す。

○やさしく　○かしこく　○たくましく

○学校周辺には畑が多く、落ち着いた地域である。
○地域活動が盛んで、保護者も学校に協力的である。
○学校は、児童の学力向上、体力向上を目指している。

学校経営方針(学力向上に関わる要点)

知識・技能を生かして、思考力・判断力・表現力を高め、主体的に学ぶ子を育てる。

各教科の指導の重点

見方・考え方を働かせ、目標をよりよく達成する。

〔国語〕言語活動の充実を図るとともに、自ら尋ね、自ら発信する話合い活動の実現を目指す。
〔社会〕社会的事象について課題を見いだし解決するための能力を育成し、社会生活についての理解を深める。
〔算数〕習熟度別少人数指導を通して、自ら考え、表現する児童を育成する。
〔理科〕自然に親しみ、見通しをもって観察実験を行うことを通して、自然の事物・現象についての問題解決の能力と自然を愛する心情を育てる。
〔生活〕具体的な活動や体験を通して必要な知識を身に付け、自立への基礎を養う。
〔音楽〕美しいものに感動し、すすんで表現しようとする心情や感性を育てる。
〔図工〕つくる喜びを味わわせるとともに、造形・表現活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。
〔家庭〕基本的な生活習慣を身に付け、日常生活に必要な知識や技能を高める。
〔体育〕児童が主体的に体力づくりに取り組めるよう、日常化につながる指導を行う。
〔外国語〕外国語を聞く、話す等の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。
〔特別の教科道徳〕教材や資料の充実を図り、道徳的実践力を身に付けるようにする。

本校の目指す「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された内容の確実な定着を目指す。基本的生活習慣および学習習慣を確立し、計画的かつきめ細かな指導を通して次の資質・能力を育成する。

知識・技能

思考力
判断力
表現力等

学びに向かう力・人間性等

総合的な学習の時間の指導の重点

○自ら課題を見付け、自ら学び、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
○多様な学習形態を工夫し、体験的な活動を通して、よりよく生きようとする意欲を高める。

道徳教育の指導の重点

○人と社会の関わりを考え、正しい生き方を目指し、人権を尊重する態度を養う。

外国語活動の指導の重点

○言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

特別活動の指導の重点

〔学級活動〕互いに協力し、よりよい生活を築こうとする態度を育て、学級活動の充実に努める。
〔児童会・クラブ活動〕自発的、自治的な活動を通して思いやりをもって協力し合う態度を育てる。
〔学校行事〕自主的・意欲的に行事へ参加させ、愛校心を高め、集団への所属感・一体感を深める。

キャリア教育の指導の重点

○自分を理解し、個性や特性を伸ばし、自己の生き方を主体的に考える態度を育てる。
○日常における問題について関心をもち、共通の認識を深めようとする意欲を高める。

生活指導の重点

○基本的な生活習慣を身に付けさせ、規則正しい学校生活を送る態度を育てる。
○保護者や地域社会とのつながりを深め、共に子供たちを見つめ、育てていく関係を確立する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点から
・各教科等の学習活動において、言語活動充実の工夫を積極的に行い、思考力や表現力等を養う。 ・学び合いの工夫を取り入れる。 ・タブレットＰＣを多様な学習活動や基礎学力の定着に活用する。 ・年２回の読書旬間や、読み聞かせ活動などを実施し、読書活動の充実を図る。 ・児童が自ら課題をもって問題解決に向かう授業を推進するために、学習資料や教具の充実など、学習環境の整備を進める。 ・小中一貫教育の視点を踏まえ、課題改善カリキュラムを基に個別指導の指導体制を工夫する。 ・算数科において、習熟度別指導を行い学力の向上を図る。	・課題改善カリキュラムを基に習熟度別指導の工夫、充実を図り、分かる喜びを体得させる。 ・学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。 ・自然環境を生かし、体験活動や栽培活動を実施する。 ・学級活動や特別の教科道徳の充実を通じて互いに認め合い、高め合えるような場を設定する。 ・年２回の読書旬間を設定することで、校内における読書活動の充実を図る。	・児童の「確かな学力」の定着を図るために、教員一人一人の授業力向上を目指した校内研究を推進する。 ・OJT として主任教諭を講師とする研修会を年間を通して計画し、指導力の向上を図る。 ・支援を要する児童への理解を深めるための研修会を年２回行う。 ・不登校、いじめを防止し温かい学級づくりを進めるための研修会(８月)を実施する。 ・２年次、３年次研修に伴う校内の授業研究会を実施する。	・授業ごと、単元ごとに観点別学習状況の評価を行い、授業改善に生かす。 ・指導と評価の一体化を目指し、効果的な評価活動を行う。 ・年間を通して、補充学習や評価テスト等を継続的・計画的に行うことで、基礎基本の定着を図る。 ・児童一人一人の学習意欲を高められるよう、各教科において児童自ら振り返りや自己評価を行う。	・週１回、放課後に地域未来塾を行い、地域の学習支援員により低学年の基礎学力の向上を図る。 ・保護者や地域、学校評議員により学校評価を実施し、授業改善に活用する。 ・学期中、休業中の家庭学習の充実を通して学力の定着につなげる。 ・学校公開、保護者会、個人面談、日常の連絡を活用して保護者との連携を進める。	・中学校区別協議会の際に、全教科分科会を開き、各教科の研究、指導を通しての連携を図る。 ・中学校区別協議会において中学校と情報交換をし、小小・小中の連携を強化する。

授業改善プランの検証　○保護者や地域、学校評議員による学校評価を参考にする。　○学年・教科部会で評価する。
○職員会議で評価内容を共有し、改善策を検証する。